

メコン河を越えて ラオスの歌姫が アジアへ羽ばたく

やぶさわかつまぎ
八木沢克昌

社団法人 シャンティ国際ホランティア会(SVA)
常務理事・アジア地域ディレクター

ラオスで初めてのスーパー・
アイドルが誕生した

2002年、アレクサンドラが14歳でデビューした。愛くるしく清楚な顔立ちに加えて、ラオスの伝統音楽、西洋のクラシックに独自の感性を織りこんだラオス初のポップスのサウンドは、人々に衝撃を与えた。トレードマークとなったバイオリンを片手に奏で、ラオス伝統のシン(巻きスカート)からパンツに変えて、ステージで躍動的に踊った。

1975年、社会主義国に移行了したラオスは、これまで有名歌手を情報文化省の専属にして伝統的歌謡の継承に務めていた。また、政府は外国文化流入による伝統文

化の破壊を警戒していた。

94年には、タイとラオスの間のメコン河に友好橋が架けられ、タイの物資が急激に流入した。また、ラオス人も橋を使って簡単にタイへ渡れるようになり、両国の人の交流も盛んになった。そして、ラオス経済はタイ通貨バーツ経済に組み込まれていった。首都ビエンチャンを中心として、ラオスのメコン河沿いでは、タイのテレビやラジオが受信できて、西洋や日本のポップスを取り入れたタイの最新の音楽が人気を集めていた。ラオスで初のスーパー・アイドルの誕生だった。ラオス各地で開催されるアレクサンドラのコンサート会場には数万人が集まった。



アレクサンドラ(左)。大学の友人とチャリティー・コンサートのポスターを手に。SVAラオス事務所前で。2006年

写真提供：筆者(以下同じ)

ファンたちは数日前から寝泊まりし、サインを求めて殺到した。ビエンチャンの街のなか、ラオスの国中にアレクサンドラの微笑む広告塔が溢れた。こうした現象のすべてがラオスでは初めてだった。

**タイでの活躍に事実無根の噂と
バッシングが起きた**

タイとラオスの両国で、過去の歴史に対する認識には、想像を超える違いがある。わかりやすい例では、バンコクの有名なエメラルド寺院のエメラルドの仏像。ラオス側からすると、タイに略奪されたもの。タイ側からすると、もともタイの領土にあったものを取り戻したことになる。タイの近代史では、1827年

のビエンチャンの反乱として描かれ、バンコク王朝に反逆した逆賊のアヌ王も、ラオス側からすると国民的英雄として高く評価されている。アヌ王はバンコクでさらし者にされて、檻に入れられて溺死の刑を受けた。

翌1828年、ビエンチャンは当時のタイ軍によって焼き尽くされ、無人の都となった。さらに多くのラオス人が奴隷としてタイに連行された。

さらに1893年には、シヤム仏講和条約によりメコン河を挟んで、同じ民族のラオ人の国土が二分。メコン河の西岸はタイの領土として、現在は東北タイと呼ばれている。東岸が現在のラオス。ラオスはタイからの度重なる侵略、弾圧、略奪、破壊、支配を受ける歴史を繰り返してきた。

04年3月、アレクサンドラは、タイで開催された「パタヤ音楽祭」に、ラオス人歌手として初めて招待された。斬新で独特なスタイルと高い音楽性でタイ人のファンを魅了し、タイのテレビや新聞からインタビュウが殺到した。



タイのバンコクでのコンサートでファンに握手を求められるアレクサンドラ。2005年

その後、アレクサンドラは予想もしない災難に見舞われた。「アレクサンドラが、タイのテレビで『ラオスなんか生まれて残念』と言った」という噂が国中に広まり、アレクサンドラの微笑む広告塔の写真の一部が壊された。「もうラオスにはいない」などの怪情報が乱れ飛んだ。

アレクサンドラには、まったく身に覚えのない発言とバッシング

だった。タイ側の音楽祭を主催した関係者、発言を放送したとされるテレビ局の関係者も「信じられない。そうした発言は一切なかった」と証言した。噂の原因は謎だった。

こうしたことは、アレクサンドラが初めてではない。03年にカンボジアの新聞が、カンボジアでも人気のあるタイの女優が「アンコール・ワットはタイのもの」と発言したと報道し、怒ったカンボジアの民衆が、タイ大使館を襲撃する事件となった。また、以前にも、ラオスで人気のタイ人歌手が「ラオス人は汚い」と言ったという噂にラオス人たちが激高した。いずれも事実無根だった。

こうした事件から証明されるのは、タイが絡むとラオスやカンボジアでは過剰に反応し、バッシングに火がつくことだ。タイのバーツ経済圏の拡大や、マスコミを通したラオスへの文化的侵略に対して、ラオスの国民感情は、憧れ、劣等感、妬みと、過去の歴史に対する恨みとが、複雑に入り混じっている。

07年2月、アレクサンドラは再びタイとラオスを巻き込む事件に

遭遇した。タイのテレビ局、チャンネル7で放映予定だったタイ人男性とラオス人女性の恋を描いた『メコン河のラブソング』にヒロインとして出演したときのことだ。撮影も終わり放送直前になって、ラオス政府から放映に対して抗議があった。放映開始前日に、タイ側は外交問題になることを恐れて放映の延期を決定した。ラオス政府の抗議は、アレクサンドラが演じるヒロインのラオス人女性が偏見で描かれたもので、ラオスが侮辱されているとの理由だった。

澄んだ声と抜群の歌唱力、高い音楽性と知性、語学力

数カ月後に、問題点が修正されてテレビ番組は放映された。アレクサンドラは、ドラマのなかでも、得意のバイオリンや歌、踊りを披露し、タイでも一人では歩けないほどの人気スターとなった。アレクサンドラのタイでのデビューは、これまでのタイからラオスへという音楽の流れを、初めてラオスからタイへと変える画期的な出来事となった。

08年には、タイの同じチャンネル7で、テレビドラマ『ジャングル

の娘』のヒロインを演じ、歌と踊りも交えて好演した。アレクサンドラのラオ・ポップスは、タイでの人気を不動のものにした。バンコクの街には、いまだに彼女の出演したテレビドラマの海賊版が出る人気ぶりだ。

小国ラオスの現在22歳のアレクサンドラは、タイとラオスの歴史を超えようとしている。一人の歌手としての歩みを見ると、ラオスの社会、そして隣国タイとの関係を写し出す鏡のようだ。

アレクサンドラは、今、日本の大学院で学び、日本デビューも視野に入れていく。愛くるしく清楚で凛とした存在感があり、澄んだ声と抜群の歌唱力、高い音楽性と知性、卓越した語学力を備えるラオスの歌姫が、メコン河を越えて、アジアの歌姫へと羽ばたく将来が楽しみだ。



やぎざわ かつまさ ●東北福祉大学社会福祉学部卒業。1980年、SVAタイ事務所へ赴任。カンボジア、ラオス、ミャンマー難民支援、教育、文化を中心とした国際協力、国際交流事業に関わる。06年、外務大臣表彰。著書に『アジア、熱き希望の大地』